

神代陵



第37号

題字 西 春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会

○発行日 平成 25 年 10 月 26 日

○編集発行人 大平 政弘

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471

写真 橋口 教頭先生

第37回会 第37回総 新たな飛躍を目指して、 大平新執行部発足!

第三七回東京同窓会は、前日までの豪雨が一転、まるで総会を祝うかのように晴れ渡った六月二二日(土)、新宿ワシントンホテルに於いて、故郷・近隣故郷会のご来賓をお迎えし、総勢一七〇名に近い出席者のもと盛大に開催されました。

故郷からは、大坪憲市本部同窓会会長・小屋敷浩昭校長・水溜孝志先生・恩師馬渡武弘先生が、台風の荒天のなか、たいへんな思いをされて



駆けつけてくださいました。

恒例の特別講演会は、「百歳を生きる人達」と題して、昭和四六年卒の社会福祉士、岡野信久さんに講演していただきました。百歳を生きている人たちの実例をご紹介しながら、講師の生きざまを交えた話には魅了され、教えられるところがあり、多くの同窓生が力をもらいました。講演の余韻覚めやらぬうちに、昭和四五年卒、川原修二さんの発声に続いて会長挨拶で、第三七回総会は開幕しました。

その人柄ゆえに人望厚く、またその慧眼により組織を束ねてまいりました鯉坂悟郎会長は、二期四年務められた会長職を辞する旨の表明をされました。大平政弘新会長に今後を託されました。新会長は力強くこれに応えられ、歴史ある我が母校の伝統を繋ぐべく、大平新執行部体制の下、全役員が力を合わせて可能な限りの努力を注ぐ決意を表明されました。さらに、当会発足当初から係わり女性陣を束ね、当会のマドンナとし

て長く親しまれた辰元房子、足立美美子両副会長、この人無くして当会は成り立たないと言わしめた峯元政公副会長兼幹事長が勇退されました。いずれの方も当会の大功労者であり、感謝状が贈られました。

懇親会の冒頭、郷里から駆けつけてくださった大坪憲市本部同窓会会長は、母校の振興・活性化のために地域・行政・保護者・同窓会が一体となつて取り組んでいる様子、中高一貫体制の導入による活性化の動きなど、精力的な活動の様子を報告されました。

続いて小屋敷浩昭校長先生が登壇され、今春の輝かしい進路状況と、九州大会・県大会でのなぎなた部・水泳部の頑張りが紹介されました。久々の明るい話題に参加者は安堵し、また新進気鋭の校長先生をお迎えし、期待は一層高まるばかりでした。

懇親会は、昭和四五年卒、川原修二・矢島寿史さんが司会進行を務められ、昭和二五年卒、松田健三郎さんの高らかな乾杯の発声で懇談へ入りしました。

昭和四五年卒年度幹事の企画による、往年の美男美女による制服ファッションショーは、慕情にも似

た懐かしさとほろ苦さを呼び起こし、故郷の焼酎の香り、つけあげの味、そして学生時代の仲間と舞台がそろうつては、忽ち古に引き込まれていかざるをえません。素晴らしい笑顔・訛り懐かしい生き生きとした会話、同窓会ならではの光景が彼方此方で見られました。

一方、会場の外ではプロの漫画家加治佐学さん(昭和四五年卒)と令夫人真理子さん(昭和四六年卒)の似顔絵コーナーが開催され、同窓生のモデル達は笑みを浮かべながら描かれた絵を大事に胸に抱くように会場へ戻られました。

同窓会には付き物の校歌合唱で懇親会は最高潮に達し、昭和二九年卒、上村又一郎さんの万歳三唱、南谷亘英副会長の閉会の挨拶で、来年の再会を約束し閉会いたしました。

(昭和三八年卒 小原 東洋明)

第三八回東京同窓会のご案内

平成二六年六月二二日(土曜日)
新宿ワシントンホテル

お誘いあわせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。



就任の挨拶

東京同窓会会長
昭和三十四年卒

大平 政弘

東京同窓会の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さる六月の第三七回東京同窓会も大勢の会員のご出席を得て盛大に開催することができましたことはご同慶の至りでございます。

この総会において、二期四年にわたり見事なりリーダーシップを発揮されてこられました鰻坂悟郎前会長の後を私が引き継ぐことになりました。今はその重責に身の引き締まる思いでございます。

同窓会は、母校の発展に貢献することと、会員の親睦をはかることを主たる目的にしております。

母校の川辺高校は、明治三三年の創立以来一三三年の輝かしい歴史と伝統を誇りますが、今や過疎化少子化の地域環境の下で、入学希望者の減少に悩んでおり、我々としても非常な危機感を覚えているところであります。

母校を遠く離れている東京同窓会

の我々には常日頃この母校に貢献できることは限られましょう。それでも、教職員、PTA、地域社会、行政、そして本部同窓会と共に、できることに全力を尽くして、まずは入学してよかつた、入学させてよかつたと思われる学校作りに寄与したいものです。

また、東京同窓会には素晴らしい先輩や後輩がいらつしやいます。同窓会の活動を通じてこのような先輩と後輩の交流が一段と活発になるように、いろいろと工夫してみたいと思っております。

私は、鰻坂悟郎前会長の母校及び東京同窓会に対する熱い思いを受け継いで、また、会員の皆様のご支援ご指導を頼りとして、この重責を全うしたいと念じております。なにとぞ格別のご厚情とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、東京同窓会会員の皆様のお力添えをいただき、九五名の入学者数となり、はじめて一〇〇名を割り込むというたいへんな危機的状況に



川辺高校発展のため、絶大なるお力添えを!!

同窓会会長
昭和四十二年卒

大坪 憲市

我が母校は、明治三三年の春、地域住民の熱意で創立され、一三三年の歴史と伝統を誇り、卒業生二万数百名を輩出した鹿児島県立第四中学校、鹿児島県立川辺高等学校である。

関東各地、各分野で大活躍なさつていらつしやる東京同窓会会員の皆様には、いつも母校に対し熱い思いを賜り、さらにご支援・ご協力をいただき誠に有難うございます。

本年六月の東京同窓会総会にて鰻坂悟郎会長より大平政弘新会長へ引き継がれ新役員の体制がスタートされました。鰻坂前会長には帰郷の際、いつも母校を訪れて頂き、心温まるアドバイスを頂きました。これからもご支援・ご協力をお願い申し上げます。新会長大平政弘様には、穏健な人柄と人望の厚さで東京同窓会を結集くださり、川辺高校発展のためご尽力いただけるものと思ひます。

母校は、平成二五年度募集者数一二〇名(三クラス)に対し、九五名の入学者数となり、はじめて一〇〇名を割り込むというたいへんな危機的状況に

あります。この状況を打破すべく、学校・PTA・同窓会・行政が全力を挙げ、平成二六年度の入学希望者数は一二〇名募集に対し一二一名の希望者(第一回県教委発表)に回復しましたが油断は禁物です。川辺高校の特徴をさらにアピールし、一二〇名の入学者が確保できるよう努力したいと思ひます。

本年母校は、久しぶりに大阪大学基礎工学部一名、九大工学部一名をはじめ、大阪府大、熊大、鹿大など国公立に二八名が合格しました。先生方の熱意あるご指導により、学力の伸び率は県下ナンバーワンを自負するまでになりました。部活でも、伝統あるなぎなた部・バスケットボール部・美術部・書道部・野球部の健闘が光っています。又、水泳部や、吹奏楽部では、小・中高の合同練習や、合同発表会を開催、生徒募集に一役かっています。

最後に、母校存続のために、絶大なるお力添えをいただきますようお願い申し上げます。



受け継がれゆく想いに寄せて

校長 小屋敷 浩昭

秋冷の候となりましたが、東京同窓会会員の皆様方におかれましては、ますます御清祥のことと拝察いたします。日頃から本校の教育活動充実のために、物心両面から深い御理解と御支援を賜り、厚く感謝申し上げます。皆様方の母校に寄せる思いと期待は、自己実現を図る生徒たちへの慈愛に満ちた御声援として心強く感じております。

さて、今回東京同窓会総会にお招きいただき、誠にありがとうございます。天候が懸念された中での開催でしたが、二〇〇人近くの方々が出席され、例年以上の熱気に満ちた総会となりました。旧交を温めたいという思いはもとより、母校に対する深い愛着と後輩達への期待が結実したものと深く感銘しました。この四月、一三年の歴史と伝統を誇る川辺高校の学舎を訪れた際、正門では息を呑むほどの美しい桜の木が、校内では部活動に励む声や吹奏楽の調べが迎えてくれました。落ち着

いた環境の中で、充実した学校生活が開かれていくことを羨ましく感じました。将来に対する迷いや不安が生じた時、この環境に励まされ足を踏み出せた人は、決して一人二人ではなかったと思います。

ところで、全国的に少子化の波が押し寄せ、本校でも募集定員の確保に苦勞している状況です。しかし、学校では一人一人の個性や資質を尊重した、より木目細かな教育を心掛けています。また、学校行事や部活動の様子をはじめ、生徒・職員が一体となって進路実現を目指して頑張っている姿をHPやブログ等で発信し、本校の魅力を地域に再認識してもらえよう努めています。

最後になりますが、生徒の進路実現や文武両道を図るために教育活動をより工夫・充実させて参りますので、今後とも、母校への変わらぬ御協力と御支援を賜りますことを願ひ申し上げますとともに、東京同窓会の更なる御発展と皆様方の御健勝を祈念いたします。



あの英単語今でも覚えています

恩師 馬渡 武弘

この六月、「第三七回川辺高等学校東京同窓会」に招待を受け、よるこんで出席させていただきました。今回の幹事は、昭和四五年卒ということで卒業後四四年を経過した人達でした。彼らには東京に着き早々、夜の新宿へ誘いを受け、三次会まで歓待してくれました。翌日の同窓会当日は、八六才の高齢の方から二二才を含めて、実に一七〇名を越える

多数の出席者が集まりました。さすが川辺高校だと感動したことでした。母校をこよなく愛する愛校精神と川辺の土壌で育まれた人間味豊かな人間性が、いつまでも続く「絆」の要因になっているのだと思います。私も川辺高校で英語教師としての日々の生活が、その後の三〇数年にわたる教員生活の原点となっています。

さて、同窓会は、宴もタケナワとなり多くの卒業生との昔話に花が咲いておりました。その中で、昭和四五年卒のK君が私に、「先生、僕は英語の授業のときのある単語を今で

も覚えています。それは、暗殺する」という意味の assassinate という単語です。綴りもはっきり記憶しています。先生はこの語をケネディアメリカ大統領の暗殺と関係づけて説明しました。」という話をしてくれました。私は四四年経った今でも覚えていることに感激し、同時にうれしく思いました。

確か、この授業の数年前、ケネディ大統領がテキサス州のダラスで撃たれたことを、沖縄在住の米兵向けの英語ニュース（早朝四時ごろだったと思う）で知り、すぐに両親を起してこの驚きの事件を知らせました。このエピソードを授業の中で紹介したように思います。私の感動がK君にも伝わったのでしょうか。私にとって今回の東京同窓会が一層楽しいものになりました。感謝です。



退任にあたって

前会長
昭和三年卒 鯨坂 悟郎

東京同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。本年六月の第三七回総会も多数の出席を得て盛大に開催することが出来ました。誠に同慶の至りであります。ご出席頂きましたご来賓、会員の皆様を始めとして、企画運営に当たった役員や年度幹事の皆様に厚くお礼申し上げます。

さて、本年六月の総会は役員改選期であり、また個人的事情もあり、後進に道を譲り会長を退任させていただきました。

想いましたますと、中釜会長、故本田会長の下で副会長として夫々四年間、会長として四年間、通算十二年間東京同窓会の運営に深く関与させていただきました。その間果たして十分に職責を全うしたか内心忸怩たるものはあります。ここ迄やってこられたのは会員の皆様や役員一同、そして事務局盈進社様の温かいご指導ご支援があったればこそでありましてここに改めて厚く御礼申し上げます。

例えば、東京同窓会名簿の改定、東

京同窓会三〇周年記念行事、母校一〇周年記念行事等を始めとしていろいろな出来事がありました。その間には多数の諸先輩にご指導を頂き、また多数の後輩の皆様との交流を通じて、深い母校愛に強く励まされながらの楽しい日々でありました。皆様との思い出はいつ迄も私の心の中で鮮やかに生き続けることでしょう。

今年で創立一三三年の川辺高校であります。世の流れには抗し難く遂に三クラス一〇名定員となつてしまいました。今後母校はどうなつていくのか見通せない状況ですが、現場教育の成果を最大限に上げながら特色のある中高一貫制校の申請などの道も模索して存続発展を図って頂きたいと願うものがあります。東京同窓会としては母校の危機を共有しながら今後とも物心両面で応援していかねばなりません。大平会長を中心に力を合わせてこの難局を乗り切ってください。

最後に会員の皆様のご健勝と東京同窓会の益々の充実発展を祈念申し上げます。ご挨拶いたします。



東京同窓会によせて

前副会長
昭和三年卒 辰元 房子

東京同窓会も発足以来三七周年を迎えました。二〇周年記念誌をひも解いてみますと、発足当時にはいろいろな困難なことがあり大へんだったことが窺われます。また会員の皆様の母校に対する熱意がひしひしと伝わってきます。

私は第二回東京同窓会より主人共々欠かさず参加して居ります。その頃の役員の皆様はほとんどが男性の方だったと思いますが、第四回同窓会より足立さんと共にお手伝いをする事となりました。以来三〇年余りになります。彼女と一緒にだからお互いに助け合い励ましあい今日まで続いたのだと思います。

三二年卒の年度幹事の折、鯨坂さんを中心に年度幹事を務めさせていただきました。それ以来、同期の皆様は一段と団結し、また仲良くなり親交を深めてまいりました。

そして同窓会に参加している同期の十数名で、春は桜、秋は紅葉を尋ねて一泊旅行を行うようになりました。この秋には群馬県の草津を予定しております。

(浜田さんが全部計画してくれています)、今から楽しみにしています。これも東京同窓会のお蔭だと思っております。

役員生活三〇年余りになりますが、先輩そして後輩の皆様と色々な出会いがあり、仲良く楽しい思い出が私にとっては宝物となりました。また今回の退任にあたり、感謝状並びに記念品まで頂き、身に余る思いをいたして居ります。心より御礼申し上げます。

又盈進社の社長下園典子さんには公私共に大へんお世話になりました。

最後に東京同窓会の益々の発展と皆様のご健勝をお祈りします。





感謝状に感激

前副会長
昭和三十三年卒 足立 芙美子

第三七回東京同窓会が六月二二日新宿ワシントンホテルで開催され、今総会に於いて、鯉坂悟郎会長、辰元房子副会長、峯元政公副会長そして私。ともに長年役員を務めた仲間が退任することとなりました。

前日「総会で感謝状贈呈が行われるので出席して下さい」と言う旨の連絡を頂きました。あいにく前々日に腰を痛めており出席は無理だろうと思っていました。感謝状を頂ける等自分には無縁な事、氣力を振り絞り家族の手を借りて会場までたどり着きました。

昭和五二年「第一回・同窓会発会式」が、私学会館にて四〇〇名余りの熱気に包まれ大盛況に行われたことを今でも鮮明に覚えています。その数年後より三二年卒辰元房子さんと学年評議員として出席するようになりました。総会の他、色々な集まりに参加する内、居心地の良い場となりました。

初代故川野会長、故松田会長、中

釜会長、故本田会長、前鯉坂会長の下で共に活動させて頂き沢山の貴重な経験、体験をさせて頂きました。これは私の大きな宝、財産となって残っています。

諸先輩方のご指導、同級生、後輩方のご協力を頂きながら今日まで続けて来られた事を有り難く感謝しております。

今回新大平会長より感謝状を頂戴致しました時、今日までの様々な思い出が胸が一杯になりました。身に余る光栄、幸せな一日でした。

沢山の方々との出会いがあり、また別れもありました。一人では何も出来ない私でも、皆様方のお蔭で素晴らしい歳月を過ごし、楽しい思い出が出来ました事を改めて感謝申し上げます。

長い間本当に有り難うございました。最後に、会員皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



一八年間の思い出

前副会長兼幹事長
昭和四十六年卒 峯元政公

七月に定年退職し、現在は川辺で鹿児島弁を話しながら故郷の生活を満喫しています。

東京同窓会に関わって一八年、平成七年に川野博一先輩から事務局局長の大役を引き継ぎ、その後幹事長・副会長を務めさせて頂きました。今日まで無事に務めが全うできましたのも、皆様方のご支援・ご理解の賜物と感謝申し上げます。さらに、六月の総会では身に余る感謝状までいただきありがとうございます。

この一八年を振り返りますと、数々の懐かしい思い出が浮かんでまいります。

二〇〇一年のニューヨーク同時テロ発生時、母校の三年生が、日本の学校で最初に、二千羽の折鶴を被災地に贈ったことには感銘しました。また、この行為について母校とは縁もゆかりもない「日本歌謡芸術協会」(作詞家の団体)が「美しい心を持った生徒達」と讃え、東京同窓会会場で表彰していただいたことに感謝し、感激したことが思い出されます。

また、二〇一〇年の創立一一〇周年の年には母校の体育館において当時の一年生に「日本にはどんな税金があるのでしょうか」の題で神戈陵塾の講師をさせて頂いたことです。とても貴重な経験をさせて頂きました。

話は変わりますが、八月には車で故郷の川辺に引揚げました。門司に滞在した折、旅先での日課となっている早朝ジョギング中に、関門トンネル人道を見つけ、地下六〇メートルをエレベーターでいっきに降り、七八〇メートル先の下関まで走りました。通行料は、歩行者は無料。自転車バイク(押し歩)は二〇円とありました。中学の修学旅行で同級生と一緒に「海底トンネル」という意識の下、こわごと渡った記憶がかすかにあるのですが、それから四十六年後、門司の海岸から見た下関の海岸に、あつという間に自分の足で渡れたことに感激してしまいました。

最後に東京同窓会の益々のご発展と皆様方のご健勝を川辺より祈念申し上げます。

日本人の平均寿命は、女性八六歳、男性七九歳となり、日本は世界一の長寿国となりました。しかし健康寿命はそれより数年短いと言われます。いつまでも元気なままで年を重ねていきたいというのが多くの人の願いではないでしょうか。

私は、鍼灸マッサージ師として、東京新宿でスタッフ二五名を抱え有限会社岡野ケアを営んでいます。仕事柄、各方面の多くの長寿の方々と交流があるわけですが、みなさんとても元気に過ごしています。そんな人たちには共通する「元気で長生きする秘訣」があるようです。

長寿には、言うまでもなくバランスのとれた食生活・適度の運動・睡眠が必要とされています。ただ栄養十分で、適度な運動、睡眠があれば長寿を全うできるのでしょうか。そうとばかりも言えないようです。長寿の秘訣として、食生活、運動、睡眠のほかに、心の問題が深くかかわっているように思われます。今日は「百歳を生きる人達」の心の部分をご紹介しますと思います。

私は昭和五十一年に社会人となりました。ある人から事業を譲り受け、事業を経営することとなりましたが、

三〇歳の時四五〇〇万円の負債を抱え倒産いたしました。事業継承であつたため、しつかりとした勉強もせず事業を引き受けたわけですが、倒産の方法等知る由もなく、頭は混乱し精神病院へ連れて行かれ即入院、鉄扉、鉄格子のなかの人となりました。

なぜ自分がこのようになったのか、孤独な病室の中で自問自答を繰り返していました。そして「自分は嘘つきである」「人の言うことを率直に

特別講演 百歳を生きる人達

昭和四十六年卒 岡野信久

聞けない」「我儘を押し通す」など、今回の事故の原因が自分の性格にあることに気が付きました。つまり私に大切ななにかが足りなかつたように思います。

何度か死のうと思いつめました、取返して生きることを選ばせたのは、NHKの大河ドラマ「獅子の時代」の加藤剛さんが菅原文太さんに「千次逃げろ！逃げてでも生きていけ！」というシーンが脳裏に浮かんだからです。つまり生への執着・執

念が生き続けさせたと思うわけです。

復帰後、勉学に努め今の仕事に就いたわけですが、仕事柄、日本のトップリーダーの方々を治療する機会がございます。彼らは高齢にもかかわらず恐ろしくタフネスです。夜遅くまでハードな毎日ですが、朝は颯爽としてお出かけになります。もちろんマッサージなど体のケアは十分になさっていることは言うまでもありません。

今年一月、私が新宿でケアマネー

ジャーをしていた当時九六歳の女性の娘さんからお礼のはがきを頂きました。「母は昨年六月、百歳を迎えることが出来ましたが、暮れに大往生いたしました。岡野さんの指示で生いたしました。」

続けたマッサージのおかげで身も心も癒され、眠るが如くの旅立ちでした。私たち家族・本人もどれほど喜んだか、口に表せないほど感謝に堪えません。」という内容でした。

「たかがマッサージ、されどマッサージ」職業冥利に尽きる言葉を頂

きました。

後日、娘さんからお話を伺いました。「施設の方々が必死に介護してくださった裏側には、母とスタッフとの楽しいコミュニケーションが築けた、人間関係がとてもよく多くの人から好かれた」ことが浮かび上



がってまいりました。娘さんの感謝あふれる文面を見れば百歳のお母さんの人柄がしのべれます。百歳を生きる人達には、感謝の言葉など良い対人関係を作り上げていることが多いようです。

振り返って思うのです。川辺高校

陵友だより

昭和十九年卒 白石晃三

の方々は人柄が日本一素晴らしい。それは東京で会社を興し、それなりに営み、また自分の人生を思い返した時、体で実感していることです。

一に二に勉強、三に四が無くて、五・六が掃除と擲擧される高校生活でありましたが、生活記録を書きながら、勉強する姿勢・自立心が培われたように思われます。

また無償の掃除の中にこそ、人間の心を磨く要素が備わっているのかもしれない。

私が倒産して這い上がったのも川辺高校で育んだ自立心、何よりも友達を大切にすることがあったからです。

最後にこの言葉を皆さんに送ります。

たった一度の人生
たった一人の自分

本当に光り輝きだしきれなかったら
生まれてきた甲斐がないじゃないか。

平林寺

私は倒産、そして退院後、この言葉を胸に生きてまいりました。

本日はご清聴ありがとうございます。

小生が在学した頃の川辺中は、男子の中学校として南薩摩半島では唯一の存在であった。故に半島南半分の学校の男子は、競って川辺中を志願したのである。現在存命の同級生は、NHKの会長を務めた勝目の川口幹夫君、川辺の道祖田君の外数名と思われる。

鬼界に入った知覧の林川毎君、霜出の内田君、穎娃小の政所君、枕崎小の松本君、別府小の松山君等を思い浮かべます。

当時のクラス編成は一学年が三学級で、成績順にクラスが決められて、一番から五〇番を甲クラス、五一番から一〇〇番までを乙クラス、一〇一番から一五〇番までは丙クラスとなつて居り、年度末に成績の結果では入れ替えが行なわれた。

学校自体は、勉強は十分に指導されて居り、七高・五高、及び工業・商業高校等への進学も盛んでした。一高合格の有馬先輩も居られ、又、

運動関係も盛んで剣道・柔道は勿論、陸上も劣らずに盛んでした。

昭和一五・一六年度の県内中学関係の駅伝競走に連続優勝したので、一七年の駅伝に優勝すれば優勝旗を永久に保持できるとありました。その時、小生は剣道部員の有段者でしたが、陸上部は人数不足で、小生に出場するように依頼があった。当時師範の窪先生の許可を得て、川内市の竜田神宮前をスタートして鹿児島市の照国神社間の九区間、その二区(隈之城から小幡茶屋の一km)を担当することになり、走った。

タスキを受けた時は一位に八〇〇米程離された三位でしたが、小幡茶屋の中継地では一位に一〇〇米まで迫りました。その後一位と二位を繰り返して、エースコースの林川毎君がタスキを受けて走るのですが、いつもの調子と違いスピードが上がらずにずると距離を離されて三位に落ちた。最終区間の九コースを林川先輩が頑張りましたが、一五秒遅れの二位と残念な結果となり、今も悔しい記憶の一つとしてあります。

その翌年も出場の要請がありましたが、戦争中の為か銃剣を担いで走ることとなったため、辞退した次第です。

今から思えば、川辺中は文武両道の優秀な中学でした。中間調査・学期末考査の成績表は出身小学校の校長の検印を必要としました。そんな教えを受けたことが現在の自分があると感謝の思いでいっぱいでありませう。

母校の存続を願つて

昭和二十七年卒 中禮俊則

一芸に秀でた高校として、川辺高校が生き残る道はないものかと考えています。昨年、先輩の木原康男さんが、野球部の活性化に二石を投ずる試みを提案して実現されたのはすばらしいことと同感しました。

南薩摩という立地条件からして、都会流の高校のように中央への進学校として高い実績を挙げるといふような目論見には困難が多いと思います。他にも道があるはずで、例えばスポーツ、文芸の幅広い分野の中から、ひとつ、ふたつの種目にしぼって県下で覇を争うレベルを目指すことでもいいのです。あるいは環境問題、徳育による実践活動という視点のしぼり方もありうるでしょう。

私自身は残念ながら、その先頭

の旗振り役をするエネルギーは覚束なくまりましたが、裏方としての協力、縁の下の力持ちを加勢するだけの気持ちはまだ持ち合わせています。東京同窓会の新しい執行部の発足にあたり、ひと言愚見を申し上げた次第です。

「東京同窓会」に想うこと

昭和三十七年卒 川野博一

「神戈陵」への寄稿にあたり、改めて二〇数年前のことが思い出されます。平成三年頃、篠田氏（二五年卒）から事務局長を引継ぎ、転勤の為、峯元氏（十六年卒）に引きつぐまでの五年間、いちばん大変だったのがこの機関誌の発行であった。「途切れさせるわけにはいかない」との使命感で、原稿の依頼や広告のお願いからとりまとめまで紙面を埋めるのに苦労したが、そのあとはすべて盈進社の下園社長にお願いし、ゲラ刷りのチェックだけすれば良く随分助けていただいた。打合せや作業の場としても同社の会議室を使わせてもらい、終了後は食事や一杯などに誘っていただいたことも多々あり、偉大な先輩の支えがあったればこそ大役を務められたと感謝の念にたえ

ない。六年近くの九州・大阪での勤務を終え帰京し同窓会の幹事に復帰すると共に、『関東さつま川辺会』の役員にも就任することになった。「川辺会」では、平成二一年から第四代会長の南氏（三三年卒）より会長職を引継ぎ五年が経過した。余談になるが「関東さつま川辺会」について紹介させていただきたい。同会は平成二年に（故）室屋数盛氏（昭和一〇年卒）の旗振りで発足し、旧川辺町の出身者・縁故者の親睦、ふるさととの振興に寄与することを目的に一七〇〇名の名簿収集をもとに設立され、以後二三年間、毎年二百名前後の出席者で総会を盛り上げ、又各種事業に取り組んでいる。川口幹夫氏（一九九年卒）を名誉会長にいただき、川辺高校と薩南工業高校出身の役員が運営にあたっている。特筆すべきは過半数を占める川辺高校出身の女性役員の献身的な協力と団結力であり、本会を支えている最大のパワーといっても過言ではない。本会は他にも関西、鹿児島市、川辺町にあり、四団体でふるさとの発展に寄与すべく共同で活動している。直近では平成二二年に『桜基金』を設立し、今年まで川辺町の各所に八〇〇本の桜

苗木の植樹を実行した。又、同郷会の兄弟会として「知覧会」「穎娃会」とも交流を図っており、将来は南九州市全体のふるさと会として発展的な存続も考えられよう。川辺高校に三年間学び、地元川辺に対しても深い思いと様々な人脈を持つておられるであろう同窓会の皆様は、「川辺会」への参加条件も、十分に満たされていますので、ぜひ一度出席していただければ、役員一同心よりお待ちしております。地元川辺の貴重な文化財産として何としても高校の存続を図るべく全国の「川辺会」も最大の努力を尽くすことをお約束すると共に、同窓会諸氏と母校川辺高校の発

展を心より祈念いたします。最後に、長年にわたり本会を運営してこられた鮎坂前会長はじめ前役員の皆様方に紙面を借りて心より謝意を表したいと思います。ありがとうございます。うございました。



昭和三二年卒

安田耕作

楚十吟（五） 人生

茫茫たるかな人生 夢の如く

蹉跎たるかな人生 流水の如く

鬢髪は已に粗にして眉雪悲し

しかれども落日なお心壮んにして

ただこれ黄昏に近きのみ

旅に病んで夢は枯野を駆けめぐる（芭蕉）
老を重ねて幾十霜夢は南寮を駆けめぐる（楚十）

楚十吟（六） 湘南の地

天命已に喜の寿を過ぎ 猶天命に呻吟す

生年百に満たざるに常に千歳の憂いを懐く

借問す 君が人生は如何

客舎す 幾十霜ここ湘南の地 水碧にして

富士の雪逾々白し 昔日 これ豊頬紅顔の

美少年 今日 寂寞淪落の白頭翁

今独り湘楼に登れば寂寥の思い渺然

願はくは霜葉の下にて秋逝かむ

富士の高嶺に雪を望みつ（楚十）

同級生を思う

昭和三十八年卒 上之温代

六月五日、全国から五七名の同級生が城山観光ホテルにかけつけて古希同窓会は始まった。

懐しい桜島を見ながら湯に入り、同級生の踊りを観ながら食事歓談、カラオケ、バーにも流れ、自慢話に花が咲き、つかの間の夢の一夜のようだった。

翌朝は現実にかえり、親戚の訪問、お墓参り、お家の掃除、親の介護、友人と観光、自宅へとそれぞれ手を振って別れた。

私達は戦争の真っ只中で生まれた。父を覚えてない、母親一人で育てられた人も多い。戦争の傷を負いながらも、何も無くなった敗戦後、子供を育てることに希望を託して、生きること必死だったのではないかと。

知覧特攻平和会館に残された句

あぜの草召し出されて桜かな

原口栞

夢と希望の多い若者が、学業半ばにして戦争で死なねばならなかった。私たちが生まれた頃の出来事である。

八月はお盆、亡き人を憶う月である。古希まで皆に会いに行けなかった無邪気な顔、たくさんの楽しい思い出を残してくれたやさしい同級生を憶う。

私たちはこの混沌とした現世をどう過ごしたらいいかと、時に悩むことがある。若者がもがいている姿を見るにつけて、目をそらさないで身近に出来ることをこつこつ実践しなくてはね。

美しいしわをきざんで、七年後にまた会おうね。

天上から笑顔で見ているやさしい顔の同級生を憶う古希同窓会であった。

四つのよく、

昭和三十九年卒 木村公紀

私は、オリンピックが東京で開催された昭和三十九年の春、川辺高校を卒業したと同時に警視庁警察官を拝命し、その後約四〇年間首都東京の治安維持に尽くしてきました。

健康にも恵まれ、大過なく退官できたことを嬉しく、また誇りにも思っております。

警察の果たす役割は今も昔も変わっておりません。一口で申せば「地域（住民）の安全と安心を確保（守る）すること」にあるのです。

主に、警備・地域部門の仕事に携わったのですが、私の仕事に対する基本的な考え方・姿勢は、「よく歩く、よく見る、よく話す、よく聞く」の「四つのよく」を愚直に実践することでありました。このことが、地域の安全と安心を守るための警察活動の原点であり、自己形成、さらには後輩育成の原点であると信じていたからです。

「よく歩く」＝「蟻の歩み」の如く、絶えず前に・前へ歩き続けること。普段の努力で行動力・実行力・継続力を身に付ける。

「よく見る」＝「百聞は一見に如かず」。相手の立場・目線で見ることのできる目を持つこと。そして、物事の勘どころ・問題の本質を見極められる力を持つ。

「よく話す」＝「言うなり地蔵になるな」。自分の考え・意思をはっきり伝える癖を身に付けること。コミュニケーションは、まず、話すことから始まる。

「よく聞く」＝人の話は最後までよく聞く真摯な姿勢を堅持すること。寄せられた意見・要望・苦情は、改善の良い機会となる。を、基本的な考え方・姿勢として仕

事を進めてきました。

警視庁を退官して毎日がサンデーとなった昨今は、足腰の衰えを防止するための「よく歩く」に、活字離れを防ぐために新聞を「よく見る」に、そして、これまで仕事を理由に置き去りにしてきた感のある夫婦間における「よく話す・よく聞く」に、それぞれ方向転換し、心身ともに元気なお爺ちゃんになりたいと願っているところです。

川崎地下街に西郷どんが やってきた！

昭和四三年卒 木場田文夫

多摩川を渡れば東京の、そのひとつ手前の川崎駅前に「川崎アゼリア」と言う地下街がある。店舗数一五〇、年間売上約一四〇億円、全国地下街では三番目の規模である。そこで、三年ほど前から働いている。

施設内に催事を行う広場がある。ある日、九州物産展をやっていたので覗いてみた。懐かしき灰汁巻きも売っている。販売者の欄を見ると、川辺町梅木商店とある。我が施設で川辺のお店と出会うとは！嬉しくなって、社長は来ているか尋ねたら来ていると言う。お互いに名刺を交

換し、奇遇を喜び合った。

しばらくして、同所で鹿児島物産展を行おうと社員に提案した。社員も賛同してくれた。それから、有楽町にある「遊楽館」、鹿児島県東京事務所等、様々な部署と調整を重ね、約半年間の準備期間を経て今年二月一日から八日間開催する運びとなった。自分で提案した物産展、しかも故郷の物産展を開催してもし売れなかつたらどうしよう、と不安一杯で初日の朝を迎えた。会場を覗いてみると、県の名産がずらりと並んでいる。そして、正面にはなんと西郷どんの銅像が…。まごうことなき我が故郷の景色である。



売上が心配で、期間中は午後十一時頃に報告される社員からのメールを見てから寝る日々となった。県や遊楽館の協力と社員の奮闘で売上は一日約一六五万円、合計で一三二〇万円を計上した。一日に一〇〇万円売上げれば合格点なので大成

功である。終了後には関係者全員で祝杯を挙げる事が出来た。

今、川崎アゼリアでは、毎月一回「百円茶屋」と称する鹿児島茶の試飲会が開かれている。知覧茶の試飲も出来、毎回一〇〇人以上の人が訪れる人気コーナーとなっている。また、鹿児島物産展は、好評につき今秋の十一月二四日から一週間、再度開催されることになった。

皆さん、どうぞ川崎アゼリアの「鹿児島物産展」におじゃったもんせ！

「好きこそ物の上手なれ」
昭和四五年卒 加治佐 学

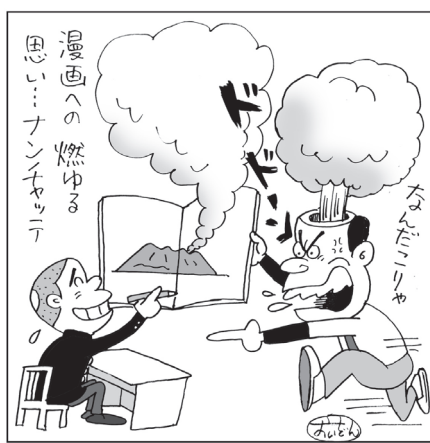
東京同窓会で四三年ぶりに再会したF君は、高校時代の私のことをよく覚えていました。

「お前は、授業中、教科書の余白に漫画の落書きをして、よく先生にガラレテいたよな」。決して真面目とは言えなかった高校時代でしたが、絵の勉強なんて一度もしたことなかったのに漫画家になっちゃいましたから、案外この落書きが役に立ったのかもしれない(笑い)。

親しい先輩にパンチヨ伊東さん(故人)大リーグ評論家)がいまし

た。パンチヨさんは、中学生になったばかりの頃に少年雑誌でメジャー紹介記事を読んで熱烈な大リーグマニアになったのです。彼は、音質が悪くガーガー雑音が入るラジオにかじりついて、米軍放送で英語のメジャー中継を聞くようになりました。マニアとはすさまじいものです。最初は選手の名前や野球用語などを霧囲気で理解できる程度でしたが、中学を卒業する頃には、ほとんど完璧に放送内容を聞き取れたというから驚きです。

私が出会った頃のパンチヨさんはすでに「大リーグの生き字引」と言われていました。「ベーブ・ルースが現役最後のホームランを打ったのは、一九三五年五月二五日ピッツバーグ・パイレーツの本拠地フォー



ブス・フィールドだよ。七一、七一三、七一四号と三本打ったんだ。万事この調子でスラスラ答えていました。

「佛像彫刻との出会い」
昭和四五年卒 福元 勇次

私は現在広島に住んでいます。広島では高校の同窓会がないため、今回、東京在住の皆様のおかげで、東京同窓会に参加させていただきました。四十数年ぶりの再会で、非常に懐かしく、特に三年間寮生活をともにした菊永君との再会は感無量でした。同期の皆様へ感謝します。

去年停年退職を機に、セカンドライフについて色々悩んでいましたが、兎に角、サラリーマン気質を断ち切るために形から入ろうと思い、顎鬚を伸ばし、髪の毛も短髪にしました。そこで、会社のための時間から、自分の時間に変遷すべく、メインテーマに「バードカービングと読書と健康づくり」をテーマに検討しました。バードカービングは彫刻刀の使い方を知得しなければならず、そのためには、佛像彫刻が妥当であること

から仏像彫刻を始めることにいたしました。これが仏像彫刻との出会いです。一年間、彫刻家の教室で実習し、現在では観音菩薩など八体の仏像を完成させることが出来ました。新たにレリーフ（木板に仏像を彫る）と、刻印（木板に文字を彫る）にも挑戦し、近くの居酒屋の看板を制作し活用していただいております。仏像彫刻は、刃物の正しい使い方と研ぎ方が重要と心得ました。刃物の切れ具合や檜の匂いは心が安らぎます。本格的な仏像彫刻は仏師に手ほどきを受けなければなりませんがあくまでも趣味の世界とし、動物彫刻や刻印、レリーフでも楽しもうと思っております。バードカービングにも挑戦したいですね。

読書（古事記、日本書紀を愛読）やウォーキング&ジョギング（二〇〇km/月）と、セカンドライフも充実してきております。

同窓・同期の皆様、今後ともよろしくお願いたします。



「世界遺産富士登山」
昭和五〇年卒 加瀬美千代



関東ふるさと
会事務局に携わりながらも、川
辺高校同窓会は
音信不通となっていたが、今年やっ
と出席が叶った。

そんな折り、昭和五〇年卒同期の方から富士登山に誘われ、男性二人女性五人「富士登山ゆつたりコース」ツアーに参加することになった。登山日までの二ヶ月間、「備えあれば憂い無し」とばかりに、各々が休肝日設定、トレーニングジム通い、徒歩通勤等々体力作りに励んだ。私は、十年來の週末トレーニング、六年來の週末農作業に加えて毎晩公園を三周走った。メール交換でお互いを励ましながらのトレーニングに絆は深まり、旅はいつそう楽しいものとなった。

ウォーキング好きで、地方の大会にたびたび参加、普段は風景を眺めながらの歩きを楽しんでいるのだが、今回はガイド付登山とハードルは高く、眺めるものは砂地ばかりで、写真とは違う厳しい富士の姿に戸惑った。

下界に浮かぶ美しい勾玉の湖が山中湖と知り、両親を山中湖の保養所に連れて行った事、そして山中湖にそびえる富士山の綺麗だった事を懐かしく思い出した。そして今、あの時の綺麗な富士山にいると思うと胸が熱くなるのを感じた。

頭痛や食事ができないほどの症状に見舞われながらも、メンバーに助けられ、ご来光を見られ、お鉢廻りもでき、すばらしい世界遺産の旅でした。

次は屋久島、マチュピチュ・スペイン巡礼と夢はいっぱいあります。この夢の為に公園三周は続けよう。今年は大イマモンドヘッドのご来光、出雲大社の遷都式・そして世界遺産



登録年の富士山ご来光を体験し、記念すべき年になりました。

「西慶西さんとの出会い」

一人の縁を大切に
昭和五二年卒 渡邊淳子
(旧姓六反田)

私は、川辺町高田上の後の出身です。この原稿をキツカケに、縁が広がる事を期待しています。声をかけて下さいね。

同窓会では、私の兄六反田和武（四八年卒、二四歳で他界）の話も聞けるのも嬉しい事です。今年は、机に刻まれた「路苦鍛打加頭太氣」（名前の当て字）を見たことがあると聞いて驚きました。若い頃は、勉強の出来る兄を恨んでもいたので、兄も苦しかったのだなど、可哀そうな気持ちになりました。

今から三〇年程前の話ですが、その兄の四九日を東京で行う事になった私は、浄土真宗のお寺を探しました。そして辿り着いたのが、落成したばかりの足立区六月町にある光徳寺。御挨拶に伺って、鳥肌が立つほど驚いたのは、住職の西慶西さんは、川辺町宮の方（昭和一六年川辺旧制中学校卒）。また、当時私は結婚が

決まっていた、主人が小さい時、西さんの隣に住んで居たことも分かりました。私の両親の事も良くご存じで、何という御縁かと。兄が導いてくれたのだと感じました。残念ながら西さんは、平成二三年に他界されましたが、法事の度に田舎へ帰る事も出来ないのです、光徳寺には今でもお世話になっています。

また、同窓会の時期になると思い出すのは、四九歳で他界した山田(内匠)和恵さんの事。小学校から高校までずっと一緒に、結婚してからも家族ぐるみで付き合い、同窓会にも常に誘い合って参加していました。

あらゆる事に前向きに対応し、密度の濃い生き方をした彼女を偲び、七月には同級生四人で八王子にお墓参りに行きました。その日は八王子で仕事をしている深尾(室屋)昌代さんと合流し、鹿児島弁で思いつき語り、笑い、時間を忘れる程でした。『元気で過ごし、来年の同窓会で会おうね』と、誓い合いました。

私は、川辺で育った事に誇りを感じながら、人と人との繋がりを大切に、感謝感謝で生活していこうと思います。

「故郷への思い」

昭和五四年卒 満留尚美

川辺高校卒業と同時に、生まれ故郷川辺を旅立って東京で六年、結婚して福岡県北九州市で二五年過ごし、三年前より夫の転勤で再び東京で暮らしています。

川辺で育った高校卒業までの年月は、わずか一八年なのに、どの土地へ行っても高校野球は鹿児島を応援し、鹿児島出身のアーティストさんや俳優さん達には親近感を覚えて注目してしまいます。きっと、皆さん同じですね。

今回三〇年振りに東京同窓会に夫婦で参加させて頂きました。



数一〇年振りにお目にかかる懐かしい先輩方、初対面なのにすぐに話せる方々、懐かしい校歌、さらに美しい郷土料理と終始楽しい雰囲気を感じました。

大先輩をはじめご参加の方々が永年東京同窓会を大切にされてきた熱い想いを感じました。

その想いは、川辺高校という母校が、皆様の人生の旅立ちの拠点であり、それまで親に守られて過ごした思い出の風景に自分の原点を重ねているからこそその大切な想いなのではないかと思いました。

ところで、この二月に鹿児島の父が八八歳で永眠しましたが、父は日本を、鹿児島を、故郷をこよなく愛し、家族を愛してくれました。また、いつか私達が故郷にもどる事を望んでいました。皆様の熱い想いに応えられるように、わたくしも社会の役に立って、いつかまた故郷に帰れたらと思います。

最後に、川辺高校と同窓会のみますの発展を心よりお祈り申し上げます。

A級資格取得

講習会を受講して

平成六年卒 有村公美子

私は一三年前からボランテニアスタッフとして東京都で開催されるバレボールの大会に携わって来ました。最初はモップをかけるモッパーやボール回しを行うボールリトリバーを行いました。

ボランテニアを始めて数ヶ月経ったところで、審判員資格取得のお話を頂き、二〇〇〇年の六月にC級審判員資格を取得、その翌年にはB級



審判員試験に合格し、活動の場が増えました。そしてこの度、去る八月一〇日から一四日まで、東大阪市の近畿大学で行われましたバレーボールのA級審判員の資格取得講習会を受講してきました。B級までは都道府県ごとで毎年の試験ですが、A級の試験は二年に一回大阪で行われ、今年は全国から推薦された合計七八名が集まり八つの班に分かれ、実技試験と筆記試験、面接を受けました。実技試験では大学生の練習ゲームの審判を行います。淡々と進むゲームもあれば荒れるゲームもあります。最初はバラバラだった班の一〇人が回数を重ね、ディスカッションしながらゲーム運営していく中であまり、最終日のゲームの時には気持ち一つにできたことに達成感を感じました。「審判団」という言葉を改めて実感できた瞬間でした。面接試験は全体を二三のグループに分け、国際審判員資格を持つ審判の先生方が面接官となり一対一で行われました。中日の夕方には一番の山場であった筆記試験。六人制と九人制のルールブックの内容や実際の取り扱いについての試験でした。試合場の規格からアタックやブロック、サー

ビスの定義や、実際の試合で起こりうる例外的な事項への対応手順等々で、前日の夜まで東京から受講しているメンバーが集まって勉強会をして試験に臨みました。どんなに勉強しても足りない気がして不安でしたが、仲間の支えもあって無事終えることができました。

今回は資格取得講習会という「試験」でしたが、五日間共に頑張りぬいた仲間が全国にできました。この仲間と切磋琢磨して、今後もこのボランティア活動を本業である社会保険労務士の仕事と両立させながら頑張っていきたいと思っています。

今年は一月にワールドグランドチャンピオンズカップ、一二月には天皇杯・皇后杯が東京体育館で開催されます。是非一度、会場に足を運びください。

近況報告

平成二十四年卒 西 雅史

私は現在、法政大学に在学しております。

去る六月二二日の東京同窓会には、学生という身分でご招待頂き、参加させて頂きました。終了後は二次会、三次会と「同窓の繋がり」でしょう

か年の離れた先輩方とも楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。

私は、鹿児島県で育った大学生を中心に、現役高校生「道しるべ」たらんと、鹿児島県人会を組織し、全国で十数名の学生たちと活動しています。今回は、その活動の一端をご報告させて頂きます。

私も鹿児島県人会では、様々な高校を卒業した現役大学生による、高校生の為の講演活動を準備して参りました。

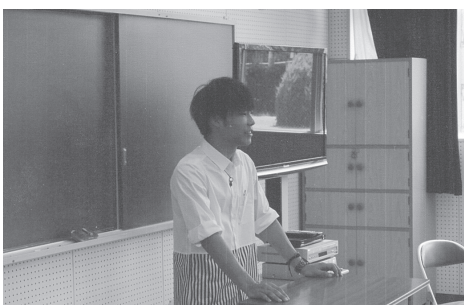
そしてこの夏休み、我が母校川辺高校と鳳凰高校(旧加世田女子高校)のご協力のもと、両校で私を含む五名の大学生が演壇に立たせて頂きました。

私の講演内容は、「遊びのプロフェッショナル」「カイゼン(改善)の力」と題しまして、上級大学進学を念頭に置いた実用的な話をさせて頂きました。学生の感想文を拝見いたしましたところ、「挑戦していききたい」との感想が多く、学生の意識を変

えることに貢献できたと思います。

新しく赴任された小屋敷校長先生のご協力も得られ、大きな成果を上げることが出来ました。これから更に、母校に鹿児島に貢献していく意気込みでおります。東京同窓会の皆様にも応援していただければ幸いです。

現役大学生による鹿児島を盛り上げようという団体が、私の知る限り四団体あり、鹿児島発展のためにそれぞれが力を尽くしております。今はまだ、どの団体とも抽象的な話し合いしかできていない状況ですが、私も鹿児島県人会も、他の団体と結集し、協力しながら取り組んでいけたらと願っています。



年度幹事座談会

年度幹事を終えて

年度幹事代表 川原修二
年度幹事 川原修二

杉山(旧姓 六反田) 直子
諏訪免(旧姓 三宅) 博子
原口泰広、矢島寿史

川原 おやつとさんじゃったね。

博子 川原さんな、立派じゃったが、よか司会じゃったち、皆がひったまがっていたよ。

川原 うんにゃ。そいよっけん、おなごん衆が、人手が足らんかったのに、受付やら、わっせー頑張ってくれた。先輩方から、「よか同窓会じゃった」つち褒められて、よかこっじゃった。

直子 まこて、おはん達やー。

矢島 ちよつち待て。こんまま鹿児島弁じゃ、ワープロの変換も効かんし、ややこしかど。こつから先やー、標準語で頼んど。

原口 司会はもう少し、くだけた感じでやるのかと思っていた。川原が、いつになく真面目に…。

川原 実はアドリブとかも挟んでと思っていたんだけど、案外難しいもんだね。あれが精一杯でした。それより、博子のセーラー服と原口の学生服姿は結構受けたね。

矢島 残念だったのは、あのイベントの提案者の玲子が、ご主人の海外転勤に同行、同窓会に出られなかったことなんだけど、後日、成功を報告したら、とても喜んでた。それにしても、原口も博子も堂々としていたね。恥ずかしがるんじゃないかと思っていたんだが、博子は高校の頃より可愛かったし、原口は高校の頃より、悪ガキっぽかった。

原口 各テーブルを回った時、先輩方も後輩達も喜んでくれたので、その気になれた。高校三年生を歌い出したら、先輩方がステージに上がって、一緒に歌ってくれたじゃない。あれは嬉しかった。結構、胸を詰まらせていたんだよ、俺は。

博子 四五年ぶりのセーラー服には、恥ずかしいというより、自分で感激したの。それにしても、川辺高校の先輩の皆さんの若々しさとエネルギーにはびつくり。出席者には親子どころか孫ほどの年の差があつて、同じ時代に学校に通っているわけ

じゃないんだけど、あの会場の中では、皆がまさしく「同窓」。わたしも元気をいっぱい戴くことができました。あつ、そうそう。相手役が原口さんで良かったわ、矢島さんじゃなくて。

原口 ふんふん。

矢島 えーつ。

直子 まこて、おはん達やー。

川原 まあまあ。そりやそうと、同じクラス仲間でも、高校時代、そして卒業後、みんながそんなに親しくしていたわけじゃない。久しぶりに会って、正直言つて「あれ、この人、こんな人だったっけ」というようなこともあった。打ち合わせで、何回か顔を合わせているうちに、高校時代とはまた違った連帯感が生まれてきたんだけど、これも嬉しい誤算かもね。

原口 そもそも川原と矢島も、そんなに仲が良かったわけじゃないんだろ。

川原 仲が悪かったわけでもない。

矢島 川原とは打ち合わせと称して、よく酒を飲んだ。今日の座談会には参加していないけど、仲間の東孝二が言っていた。「酒癖の悪い者同士で気が合ったんだらう」と。

博子 そろそろ、時間よ。直ちゃん、まとめてよ。

直子 まこて、おはん…。

川原 じゃなくて。

直子 はいはい。私たち年度幹事も頑張ったけど、やっぱり同窓会の役員の方や通年幹事の皆さんの存在は大きいわ。同窓会当日もそうだけど、準備段階で、同じ「川辺高校繋がりの世代を超えた仲間の方々と絆ができたじゃない。これって、すごく素敵な体験だということ、次の世代にも伝えていきたいわね。



母校だより

「優良PTA」

文部科学大臣表彰

受賞 川辺高校PTA

川辺高校PTAは第六三回全国高校PTA連合会山口大会に於いて、平成二五年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞いたしました。

優良PTA文部科学大臣表彰は、『①学校教育及び家庭教育に関する諸活動が活発に行われている ②地域の教育環境の改善に効果을 上げている ③生徒の学校外における諸活動の促進や生活指導が活発に行われ



ている ④学校以外の各種機関・団体と連携・協力を図っている』PTAに贈られるものです。平成二五年度は全国で三〇校、九州では五校が表彰をうけています。

東京同窓会の皆様に、今回受賞の対象となったPTA活動の一環を、川辺高校PTA副会長、鯉坂雅代さんの原稿から抜粋し、ご紹介いたします。

『高校の振興・活性化を図るために、地域・行政・保護者・同窓会が連携協力し、側面から援助する組織「川辺高校活性化協議会」を立ち上げ、精力的に活動しています。

第一課題である生徒募集支援に於いては、通学困難地域のスクールバス運行、学校PRクリアファイル作成・校門前に生徒たちの活躍を知らせる横断幕・パネル等に関する経費補助、中学校の職員・PTA役員との研修・交流会への参加等、支援を行っています。

母校の伝統的な校外活動である生徒たちによるボランティア活動では、受け入れ先の確保・交渉など、バックアップ体制を整え支援しています。これらの事例のほかにも、学校・PTA・同窓会・地域が深い係わり

の中で、子供たちを見守り育てていく具体例が示されていて、まさに文部科学省が表彰するに合ったPTA活動であります。今回の受賞は、我が母校にとって大変な名誉であると共に、母校から遠く離れている東京在住の私たちには、母校の窮状に何すべもなく案じていましたが、PTAの皆様方の日ごろの活動を知り、心強くも安堵いたしました。

PTAの皆様方のご努力に対し心から御礼申し上げます。

国民体育大会出場

水泳部 なぎなた部

第六八回 国民体育大会（東京）水泳競技に、一年生の下久保美佑さんが出場されました。

一〇〇m自由形予選三組に登場した下久保さん、五八秒九〇（自己ベスト）を出し、同組四着でゴールしました。

三四人が出場し、全体の一三位、惜しくも決勝進出はなりませんでしたが、しかし、全国の大舞台で自己ベストをレコード出来る泳ぎに拍手大喝采です。まだ一年生、将来を嘱望される逸材である。

第六八回 国民体育大会（東京）なぎなた少年演技の部に、三年生の鳥濱菜月さん、二年生の有村千尋さんが出場されました。

鹿児島県なぎなた総監督には、川辺高校顧問・村松先生、成年女子には川辺高校OGの二名が出場されました。

川辺には「南九州スポーツクラブ」というなぎなたのクラブがあり、地域の小学生から一般まで、一緒になつて週三回汗を流しています。熱心な指導者に恵まれ、半世紀以上にわたり競技の普及や技術の向上の拠点となっています。

今回の国体なぎなた出場選手が、わが母校の関係者を中心に組織され、全国・九州の表舞台で相次いで好成績を残しているのも、こうした一貫指導が実を結んだといえます。

2013東京国体 頑張れ郷土勢



なぎなた

（9月29日、10月1日、港区スポーツセンター）
成年女子は演技（試合）、少年女子は演技に出場する。
成年試合の先鋒（せんぱい）赤崎（鹿児島県信用金庫）は勢いのある試合運びが得意な経験豊富だ。

意、大将の丸野（せんの）は、はたけが光る。上校（じょう）は、まじまじと見守る。丸野は、試合中に不安から復帰。試合感に不安は残るが、スピードは抜群だ。演技は赤崎が仕掛け、丸野が応じを務める。両種目とも上位進出を狙う。少年演技は鳥濱と有村の川辺高勢が、昨年からのコンビを組み、全国高校総体など経験豊富だ。

「神戈陵教育振興会」
事業について

本事業は平成二年学校創立九〇周年を記念して設立された「財団法人神戈陵教育振興会」事業を引継ぎ、同窓生の寄付金を主たる運用財産として、母校の教育振興を切に願ひ、これまで高い目標を掲げて努力し続け、優れた成果を示している生徒に育英奨学金を給付し、顕彰・激励する事業です。

平成二四年度は、学力伸長の高い三年生三名、二年生二名、一年生三名と、難関大学に合格した二名に育英奨学金を給付いたしました。



学術及びスポーツ振興のための助成として書道部・美術部・音楽部に振興助成金を給付し、これまでの努力を讃えるときにもさらなる奮闘を奨励いたしました。

今春に卒業した奨学生は、先生方のご指導はもとより、生徒本人の奨学生としての自覚とたゆまぬ努力をもちまして、大阪大学・大阪府立大学・北九州市立大学にそれぞれ進学いたしました。

高い目標を掲げ、日々学習活動及び部活動に努力されている在校生の皆さんが、自らの進路目標を達成されることを祈念して、平成二五年度も事業を継続しています。

【二五年度事業内容】
育英奨学金事業

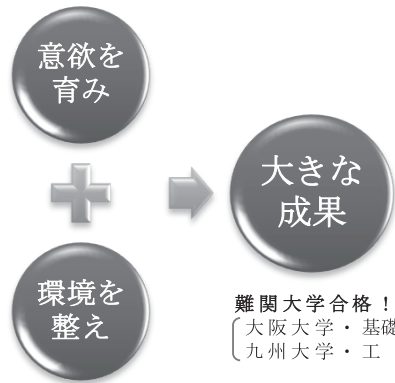
- 一 学力の伸長の見られる生徒
- 二 難関大学・学部合格した生徒
- 三 優秀な成績で入学した生徒

学術及びスポーツ振興の助成

- 一 部活動支援及び九州大会・全国大会に出場した団体・個人
- 二 学力伸長・スポーツ技術の向上のための外部講師・コーチへの謝礼

(昭和三八年卒 小原記)

我が母校の特徴



平成二五年三月卒業生の
進路状況 (国公立大学関連)

推薦入学(10名 センター試験を利用しない推薦)

北海道教育大函館校 島根大生物資源 山口大経済 佐賀大経済
都留文科大文 大阪府立大現代シス 北九州市立大文 北九州市立大経済

推薦入学(2名 センター試験を利用する推薦)

大阪大学基礎工学部 山口大学

前期日程試験&後期日程試験(16名 過年度含む)

熊本大学教育 鹿児島大法文 鹿児島大工 宮崎大工 尾道市立大経済情報
北九州市立大外国語 長崎県立大経済 名桜大国際 宮崎公立大文
九州大学工学部 鹿児島大学理

会 務 報 告

- 24年4月17日 評議員会(新宿ワシントンホテルにて)出席者:37名
議題1 第36回総会・懇親会について
2 年会費の振込依頼方法について
第36回総会・懇親会案内状の発送作業(新宿ワシントンホテル)
- 4月28日 事務局総会1か月前の打ち合わせ(同窓会事務局にて)
- 5月26日 事務局総会1週間前の打ち合わせ(同窓会事務局にて)
- 6月1日 本部同窓会・母校との交流会(新宿ワシントンホテルにて)
- 6月2日 第36回総会・懇親会を開催(新宿ワシントンホテルにて)
- 6月16日 薩南工業高校同窓会関東支部総会へ南谷副会長出席
- 6月23日 役員会「薩摩の里にて」
議題1 第36回総会について
2 会報誌「神戈陵36号」について編集等協議
懇親会(年度幹事、役員)「薩摩の里にて」
- 8月4日 関東東布施会総会へ鯉坂会長出席
- 8月5日 会報誌「神戈陵36号」の原稿及び広告依頼文の発送
- 9月9日 東京加世田会総会へ鯉坂会長出席
- 9月~10月 会報誌「神戈陵36号」の校正(同窓会事務局にて)
- 10月21日 関東知覧会総会へ小原会計監事出席
- 10月28日 評議員会(東京都しごとセンターにて)出席者:27名
議題1 第36回総会・懇親会について
2 第37回総会・懇親会について
3 母校卒業生記念品贈呈について
会報誌「神戈陵36号」の発送(東京都しごとセンターにて)
- 11月19日 母校野球部の「ピッチングマシン購入募金」へ5万円寄贈
- 25年1月25日 役員会
- 2月28日 母校卒業生に記念品(ボールペン)を贈呈
- 3月9日 関東さつ川辺会総会へ大平副会長出席

平成24年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

日:平成24年4月1日
至:平成25年3月31日

収入の部	金額	支出の部	金額
総会会費収入	1,268,000	総会費用	1,269,399
年会費収入 総会欠席者 226000	381,000	会報誌作成費・通信費	200,333
会報誌広告収入	100,000	会費(会場費等)	83,968
寄付金	218,000	通信費	35,093
雑収入	8,800	卒業生記念品	58,800
郵便貯金利息	63	母校野球部の ピッチングマシン購入募金	50,000
		他会出席	50,000
		事務用品費	6,406
		雑費	66,050
		振込料金	20,480
前期繰越金	498,141	翌期繰越金	631,475
合 計	2,472,004	合 計	2,472,004

出席者総数 173名
 内訳(会員男性 94名、会員女性 61名、学生 1名、会員外 4名、来賓者 13名)
 上記の件、監査の結果相違ありません。 会計監事 小原 東洋明
 平成25年6月15日 鳥海 睦子

新 役 員 平成25年6月

役 職	名 前 (年次)
会 長	大平 政弘 (昭和34年)
副 会 長	南谷 亘英 (昭和36年)
〃	川村 敦代 (昭和36年)
〃	小原 東洋明 (昭和38年)
幹 事 長	小原 東洋明 (昭和38年)
事務局長	内村 哲也 (昭和50年)
副事務局長	椎原 直子 (昭和48年)
〃	林 昭子 (昭和50年)
〃	中原 信寛 (昭和52年)
〃	樋渡 信也 (昭和55年)
〃	田中 勝之 (昭和56年)
幹 事	辰元 雅和 (昭和28年)
〃	石山 道 (昭和28年)
〃	上村 又一郎 (昭和29年)
〃	辰野 格一 (昭和30年)
〃	大坪 剛 (昭和32年)
〃	高崎 強 (昭和34年)
〃	千葉 美代子 (昭和34年)
〃	畠野 修一 (昭和36年)
〃	大渡 義子 (昭和36年)
〃	荒殿 孝洋 (昭和37年)
〃	川野 博一 (昭和37年)
〃	松山 満芳 (昭和37年)
〃	木村 公紀 (昭和39年)
〃	深井 麗子 (昭和40年)
〃	松永 郁代 (昭和40年)
〃	中蘭 建一 (昭和44年)
〃	川原 修二 (昭和45年)
〃	川平 悦郎 (昭和47年)
〃	内原 健一 (昭和48年)
〃	中蘭 幸男 (昭和50年)
〃	渡邊 淳子 (昭和52年)
会計監事	堂園 俊秋 (昭和38年)
〃	鳥海 睦子 (昭和38年)
幹事会計	岡本 伊津子 (昭和43年)
〃	蔵元 明洋 (昭和49年)
顧 問	川口 幹夫 (昭和19年)
〃	白石 晃三 (昭和19年)
〃	中釜 作治 (昭和24年)
〃	鯉坂 悟郎 (昭和32年)
相 談 役	安田 耕作 (昭和22年)

東京同窓会役員改選
 任期満了により、東京同窓会の役員
 改選が行われました。新役員の皆様は
 左表の通りです。大平会長を中心に、
 全力を尽くして任務にあたる所存でご
 ざいます。よろしくご指導のほどお願
 い申し上げます。

事務局からのお知らせ

東京同窓会の課題

少子化を迎え、母校は生徒数の減少
 に悩まされ、母校・PTA・同窓会一
 体となって母校の振興・活性化に努め
 ています。東京同窓会としても出来る
 ことから支援を始め、母校の存続を図
 らねばなりません。
 東京同窓会総会・懇親会への出席者
 は年々減少しています。
 魅力ある同窓会作りが喫緊の課題と

なっています。

魅力ある同窓会作りに欠かせないの
 が活動資金です。資金量の制約で、会
 報誌配布は会費納入会員に限定されて
 いますが、全会員に配布したいのです。
 会費納入率は三割強、まずは会員の
 皆様全員が会費を納入いただけますよ
 うお願いいたします。事務局としては、
 より良い会費納入システムを作り、納
 付率を向上させてまいります。

編集後記

記録的な猛暑となったこの夏、初めて会
 報誌編集に主体的に取り組むこととなっ
 たわが身には、記憶に残る夏でもあった。
 同窓会もいざ実務を担当すると、新しい
 発見の連続です。多くの方にご寄稿を頂
 き、同窓生の素晴らしい生き方に、母校
 への熱い思いに、総会・懇親会スナップ
 写真の笑顔には感動させられました。こ
 んなに素晴らしい同窓生とこんなに素晴
 らしい笑顔に出会える同窓会を皆さんに
 味わってもらいたいものです。多くの同
 窓生・役員の皆様の献身的な協力でご
 報誌をお届けできる運びとなりました。
 お納めください。(三八年卒 小原記)
 編集者・南谷 川村 堂園 鳥海 岡本
 椎原 蔵元 内村 林 中原 田中

知的創造

何を創るかはおまかせします
 どのように造るかをお手伝いします

企画編集から製本まで
 自費出版を応援します!!
 カラー名刺・絵ハガキ
 小部数でも安価でできますご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社
 代表取締役社長 下園典子(金峰町出身)
 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル
 TEL 03-3262-3471代 FAX 03-5210-7226
 URL : www.eishinsya.co.jp Eメール : info@eishinsya.co.jp

がん検診・胃腸科・内科・外科・皮フ科

湘南長沢医院

○診療時間：AM9:00~12:00 PM3:00~7:00
○休診日：水曜・祭日・日曜午後
院長 鯉坂秀明 (昭和28年卒)

横須賀市グリーンハイツ3-8 (京浜急行長沢駅前)

TEL046(849)4114

還暦同窓会(46年卒)

“大人の修学旅行” 世界遺産を巡る旅

日時 H26年10月上旬実施予定

御案内の葉書を出します
友達、ご家族を誘って
ご参加下さい

世話人代表 岡野信久
☎03-5357-3130
090-6308-7737

関東さつま川辺会

第24回総会は、平成26年3月9日(日)
12:00よりホテルメトロポリタンエド
モント(千代田区飯田橋)で開催致しま
す。川辺出身の方に限らず、ご縁のあ
る方々のご参加をお待ちしております。

会長 川野博一
(川辺高昭和37年卒)

連絡先 〒181-0005 三鷹市中原3-8-30
事務局長 吉留浩一 (0422-26-7065)



一流シェフのフレンチを
リーズナブルに楽しめる

ピノピンクオ

オーナーシェフ 小椋 清明
経理担当 小椋 みつ子
(旧姓 小原 41年卒)

川越市脇田町17-33

Tel/Fax 049-226-4567

http://homepage3.nifty.com/pinkio/

東武東上線川越駅東口より2分

藤井光春法律事務所

弁護士 藤井光春

(川辺中昭和17年準卒)
坊津町久志出身

〒105-0003

東京都港区西新橋1-21-8

弁護士ビル707号室

先輩、後輩のみなさん高田馬場の

郷土料理+「薩摩の里」にぜひ

おじゃったもんせ!!

新宿区高田馬場4-18-10-2F

TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483

予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで

定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分

店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)



人と地球にやさしいモノづくりを...

第一大宮株式会社

監査役 小原 東洋明
(昭和38年卒)

東京営業所

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町
1-8-10三ツ美ビル3F

TEL 03-5614-7773 FAX 03-5614-7774

携帯090-5546-8670

M-mail:kobart440803@docomo.ne.jp

URL http://www.no1ohmiya.co.jp/

本社

〒566-0045 大阪府摂津市南別府町16-16

俳句を始めませんか!

高校の先輩が 優しく、易しく、授業料
なしで、教えてくれています。

例会は JR大船駅前にて 毎月
20日前後の木曜日の10時~12時。
初心者、若い人、女性 大歓迎です。

現在生徒8名(内女性4名)

私も 2年前初めて学び始めたのです。

楽しい会ですよ!

連絡先:大平 政弘(東京同窓会会長)

045-891-0197

いたさか歯科医院

審美歯科・歯科口腔外科
小児歯科・矯正歯科
インプラント・ホワイトニング

○相模原駅前クリニック

☎0120-55-4618

ゴーゴー シロイハ

○田名本院

TEL 042-714-0648

ナイヨ ゼロムシバ

理事長 板坂 健一

有限会社 岡野ケア

社会福祉士・精神保健福祉士・ヘルパー2級・
ケアマネージャー、按摩、マッサージ、指圧、鍼灸師
宅地建物取引主任



おかのぶひさ
岡野信久

プロフィール ◆出身:昭和27年生まれ、鹿児島県南九州市(旧、川辺町)

◆略歴:昭和46年、川辺高校 卒業

昭和51年、東洋大 工学部 応用化学科 卒業

平成16年、(有)岡野ケア設立

〒169-0073

新宿区百人町1-21-4-501 新宿オリンピックマンション
(総武線大久保駅北口下車 徒歩3分)

tel. 03-5348-6102

fax. 03-5348-6104

e-mail hillton11.21@ezweb.ne.jp

携帯 090-6308-7737



小屋敷 校長先生(4月赴任)



正門



尚学舎 夜景



授業風景



体育祭



時計台 & 生徒昇降口



なぎなた(インターハイ)